

## 胃内視鏡検査で認められる所見（主なもの）

（日本人間ドック学会 ホームページより 一部改編）

### 《食道》

#### 逆流性食道炎(ぎゃくりゅうせいしょくどうえん)

胃内容物（多くは胃酸）の逆流により、食道胃接合部や食道下部にみられる、びらんなどの粘膜傷害。

#### 食道潰瘍(しょくどうかいよう)

逆流性食道炎などにおける食道粘膜の傷害が強くなり生じた、びらんよりも深い粘膜障害。

#### 食道裂孔ヘルニア(しょくどうれっこうへるにあ)

横隔膜には食道が通るための穴があり、これを食道裂孔といいます。加齢や肥満、背中が曲がった影響で胃の一部がこの裂孔から胸部へと脱出してしまった状態が食道裂孔ヘルニアです。胃の内容物が逆流して逆流性食道炎を起こしやすくなります。

#### バレット食道(ばれっとしょくどう)

下部食道の上皮が胃粘膜に近い上皮に置き換わった状態。逆流性食道炎が主な原因とされています。欧米では食道腺癌（バレット腺癌）の前癌状態と考えられており、程度により、経過観察が必要になることもあります。

#### 食道がん(しょくどうがん)

食道内面を被っている粘膜から発生する悪性腫瘍（がん）。粘膜のびらんや潰瘍、表面の凹凸不整、色調変化などが見られます。

#### 乳頭腫(にゅうとうしゅ)

食道粘膜を通常構成している、扁平上皮細胞が増殖、隆起してできたポリープを乳頭腫と言い、概ね良性腫瘍で放置しても良い所見です。

#### 異所性胃粘膜(いしょせいいねんまく)

食道粘膜の一部に胃の粘膜が見られる状態。多くは先天性で良性と考えられています。

## 《胃》

### 萎縮性胃炎（いしゅくせいいえん）

主にピロリ菌の感染によって引き起こされる胃炎。高度の萎縮性胃炎は胃癌発生リスクが高く、定期的な内視鏡検査が必要です。ピロリ菌感染が明らかになった場合は、除菌治療により胃癌発生リスクが低下することが期待されます。

### びらん性胃炎（びらんせいいえん）

胃の粘膜の上皮が炎症を起こし脱落した状態。

### 胃粘膜下腫瘍（いねんまくかしゅよう）

胃の粘膜層よりも深い胃壁内に発生した病変で、緩やかな隆起としてみられます。性状により、経過観察または精密検査が必要です。

### 胃底腺ポリープ（いだいせんぼりーぷ）

胃壁の内腔を覆う粘膜の一部が隆起したもので、数ミリ程度の半球状のものがほとんどです。しばしば複数個みられます。ピロリ菌が感染していない胃に発生することが多く、概ね経過観察は不要とされています。

### 胃過形成性ポリープ（いかけいせいせいぼりーぷ）

胃壁の内腔を覆う粘膜の一部が隆起したもので、概ね良性ですが、大きさにより、精密検査や内視鏡切除が必要になることもあります。ピロリ菌による胃の慢性炎症がその発生に関係していると考えられており、ピロリ菌除菌治療でポリープが縮小、消失することもあります。

### 胃潰瘍（いかいよう）

胃酸の影響を受けて胃の粘膜に欠損が生じた状態。ピロリ菌の感染や非ステロイド性抗炎症薬、ストレスなどが潰瘍の原因となります。出血や穿孔（胃に穴があく）の危険があるので、治療が必要です。

### 黄色腫（おうしょくしゅ）

白色～黄色調のわずかな隆起。ピロリ菌感染と関係があるとされています。黄色腫自体は概ね放置して差し支えありません。

## 胃癌（いがん）

胃の粘膜から発生した悪性腫瘍。癌細胞の分化度（成熟度）や進行の度合いにより隆起や潰瘍、表面粘膜の粗造など、様々な形で認められます。早期癌の場合は内視鏡による切除が可能です。

## 迷入脾（めいにゅうすい）

粘膜下腫瘍の一つで、胎児期に、胃の裏側にある脾臓の組織の一部が、胃の筋肉の層に迷い込んでできたもの。治療の必要はありません。

## 《十二指腸》

### 十二指腸炎（じゅうにしちょうえん）

粘膜の発赤やびらんなど、上皮が脱落した状態で、飲酒や、香辛料、薬剤、感染症、ストレスなどが原因のことがあります。程度により、治療や経過観察が必要になります。

### 十二指腸潰瘍（じゅうにしちょうかいよう）

十二指腸の粘膜に欠損が生じた状態。原因にはピロリ菌の感染や、非ステロイド性抗炎症薬などがあります。胃潰瘍と同じく、治療が必要です。

### 異所性胃粘膜（いしょせいいねんまく）

十二指腸に胃の粘膜がみられる状態。先天性で良性と考えられています。

### 十二指腸憩室（じゅうにしちょうけいしつ）

十二指腸壁の一部が外側に突出してポケットのようにへこんだ状態。

### 十二指腸ポリープ（じゅうにしちょうぼりーぷ）

十二指腸壁の内腔を覆う粘膜の一部が隆起したもので、ほとんどの場合、経過観察で良いのですが、大きさにより、精密検査や治療が必要になることもあります。

### 粘膜下腫瘍（ねんまくかしゅよう）

十二指腸の壁内に発生した腫瘍。性状により、精密検査が必要です。